

授業科目名 (英文表記)	地域経営資源論 (Local Management Resources)		
単位数	1 (学部生のみ)	授業形態	講義
担当教員	出口 竜也、竹林 浩志、此松 昌彦		
開講	新宮商工会議所 (新宮市井の沢3-8)	区分	学部開放科目
実施日・時間	第1回 5月20日(土) 13:00~17:00	第3回 7月29日(土) 13:00~17:00	
	第2回 7月8日(土) 13:00~17:00		

【授業の概要・ねらい】

南紀熊野は世界遺産をはじめ、南紀熊野ジオパーク、ラムサール条約湿地など、観光資源が豊富な地域ですが、著しく人口が減少している地域でもあり、長期的な存続が危ぶまれています。そこで、南紀熊野を持続可能な地域にするために、どんな地域資源を活用して振興をしていく必要があるのかを皆さんと考えていきます。この授業では、地域の特産物、地域の文化財、自然、風景、温泉、歴史上の出来事などを地域資源ととらえ、その経営のあり方について考えていきます。この授業を通じて、地域資源を発掘し、磨き上げを行うとともに、地域資源を組み合わせることで商品化する方法や、売りたい顧客に売りたい商品の情報を適時的確に伝える方法の基礎を学んでください。

【授業計画】GS：ゲストスピーカー

第1回 地域経営と地域商品の商品化 竹林 浩志 GS：山田 桂一郎氏 (JTIC. SWISS)

持続可能な地域を考えるために地域経営という考え方が重要になっています。その時に地域資源を商品化する技術が必要になります。

第2回 世界遺産である熊野古道を商品化する 此松 昌彦 GS：内山 裕紀子氏 (くまの体験企画)

三重県尾鷲市で熊野古道のコミュニティビジネスを展開している内山さんから、エコツーリズムの視点での地域の商品化を学びます。ワークショップもあります。

第3回 地域の商品情報をデジタル化して伝達する 出口 竜也 GS：永山 卓也氏 (ビジネスコンサルタント)

地域資源は磨き上げて商品化する必要があります。現在はDXの一つとしてデジタルマーケティングとして伝達することで、多くの地域外の人たちへ繋がり、購買する商品となる。伝わる情報の発信の方法などを学ぶ。

【到達目標】

持続可能な地域としての地域経営を学び、そのために必要な商品を開発し、地域にお金を落とす仕掛けを作れるようにすることができることを目標とします。

【成績評価の方法・基準(学部生のみ)】

各回ごとにレポート課題を課して提出してもらいます(30点X3回)90%、受講時の質問や意見交換での積極性10%で評価します。

【教科書】

特になし

【参考書・参考文献】

特になし

【履修上の注意・メッセージ】

新宮会場にて行います。対面講義です。

【履修する上で必要な事項】

講義だけでなく、課題を考えるワークショップ的なグループ学習を含みます。

【授業時間外学修についての指示】

南紀熊野地域資源としてどんなものがあるのかを調べておいてください。